

公益財団法人 石巻地域高等教育事業団

- (1) 情報公開シート I (PDCAサイクルシート)
- (2) 情報公開シート II (財務諸表等)
- (3) 情報公開シート II の補足資料
- (4) 市が期待する役割、市意見書等
- (5) 定款又は寄附行為
- (6) 役員名簿
- (7) 事業報告書
- (8) 損益計算書又は正味財産増減計算書
- (9) 貸借対照表
- (10) キャッシュ・フロー計算書
- (11) 財産目録
- (12) 事業計画書

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日	平成 28 年 6 月 28 日
-------	------------------

市所管部署	石巻市 総務部総務課
-------	------------

2 法人名称等

法人名称	公益財団法人石巻地域高等教育事業団
法人所在地	石巻市 穀町1 4 番1号
設立年月日	昭和 61 年 3 月 22 日
代表者職・氏名	理事長 亀山 紘

設立目的・経過	石巻地域の旧1市9町により、石巻専修大学誘致事業の推進母体として設立され、大学開設後は地域社会における教育文化の振興発展を主目的として各事業に取り組んでいる。
---------	---

3 定款上の事業内容

- (1) 地域における教育文化の振興に関する事業
- (2) 大学等の協力による市民講座等の開催に関する事業
- (3) 高等教育機関の振興育成に関する事業
- (4) 奨学金の貸与に関する事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産総額	石巻市出資・出捐額	石巻市出資・出捐割合	市以外の出資・出捐者	市以外の者の出資・出捐額	市以外の者の出資・出捐割合
50000 千円	45366 千円	90.7 %	旧矢本町	2178 千円	4.4 %
			女川町	1409 千円	2.8 %
			旧鳴瀬町	1047 千円	2.1 %

※出資額が多い順に上位3者(個人は「個人」と表記)を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員

	H25期末	H26期末	H27期末
常勤			
うち市職員			
うち市退職者			
非常勤	11	11	11
うち市職員	6	7	7
うち市退職者	1		
計	11	11	11
うち市職員	6	7	7
うち市退職者	1		

(2) 職員

	H25期末	H26期末	H27期末
常勤	7	6	6
うち市職員	7	6	6
うち市退職者			
非常勤			
うち市職員			
うち市退職者			
計	7	6	6
うち市職員	7	6	6
うち市退職者			

※市職員(及び市退職者)とは、市の常勤の特別職及び一般職の者(及びそれらの職にあった者)で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

地域社会における教育文化の振興発展を図るため必要な事業を行うとともに、学習機会の拡充と均衡を保つために学園都市の整備事業を促進し、もって、地域における教育文化の向上に寄与することを目的とする。

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
石巻専修大学開放講座	回	目標計画	8	8	7	7	7
		実績	8	7			
目標・指標の説明			本事業団定款第4条記載の「地域における教育文化の振興に関する事業」及び「大学等の協力による市民講座等の開催に関する事業」に当たり、宮城県教育委員会との共催により実施している。16歳以上の宮城県民を対象とした石巻専修大学の教授等による開放講座を実施し、本事業団として補助金15万円を石巻専修大学に交付している。				
目標未達の場合の要因分析			平成27年度は、石巻専修大学において、全8回の講義を実施できる準備体制が整わなかったことから、全7回の講義とすることにした。また、平成28年度以降の目標計画において、回数を全7回としているが、宮城県が示す補助要件を全7回の講義数で満たすことから、今後についても、全7回の講義数にすることとした。				

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
地域研究助成事業	件	目標計画	1	1	1	1	1
		実績	3	2			
目標・指標の説明			本事業団定款第4条記載の「高等教育機関の振興育成に関する事業」に当たり、地域の経済・社会・文化に関する学術研究及び地域の産業・文化の振興に寄与する研究に対して、助成金100万円を限度額として石巻専修大学へ交付している。				
目標未達の場合の要因分析							

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
奨学金貸与事業	人	目標計画	10	10	10	10	10
		実績	6	3			
目標・指標の説明			本事業団定款第4条記載の「奨学金の貸与に関する事業」に当たり、能力があるにもかかわらず経済的理由により石巻専修大学への就学が困難な者に対して奨学金を貸与し、もって有能な人材を育てることを目的としている。震災以前は募集定員が5名であったが、震災以降は地域情勢を考慮し、募集定員を10名程度に増員した。				
目標未達の場合の要因分析			平成27年度は申請者3名中3名に奨学金貸与を決定した。これまでと同様に圏域2市1町の広報紙への掲載や石巻専修大学及び圏域高等学校へ募集のチラシ等を配布してきたが、目標計画が達成されなかった要因としては、現在は多くの奨学金制度があり、その中には、他の奨学金制度と併用不可との要件も設けられていることから、奨学金を必要とする家庭にとって、本事業団奨学金制度よりも他の奨学金制度を優先したものと推測される。				

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
石巻専修大学と圏域首長・議長懇談会	回	目標計画	1	1	1	1	1
		実績	1	1			

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

目標・指標の説明	本事業団定款第4条記載の「その他この法人の目的を達成するために必要な事業」に当たり、2市1町の首長・議長に石巻専修大学の有する学術研究機能に対する理解を深めていただくため、開催している。				
目標未達の場合の要因分析					

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
石巻専修大学と圏域高等学校との懇談会	回	目標計画	2	2	2	2	2
		実績	2	2			
目標・指標の説明	本事業団定款第4条記載の「その他この法人の目的を達成するために必要な事業」に当たり、圏域高等学校と石巻専修大学との意見交換等の交流を行い、地域の教育振興に向け、高等学校と大学との相互理解及び親睦を深めることを目的に開催している。また、現在は東日本大震災以降に一層低下したとされる地域の教育力を向上させるため、平成26年度から本懇談会を2回開催している。						
目標未達の場合の要因分析							

目標項目・指標	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度期
石巻専修大学生顕彰事業	件	目標計画	1	1	1	1	1
		実績	2	2			
目標・指標の説明	本事業団定款第4条記載の「その他この法人の目的を達成するために必要な事業」に当たり、表彰状及び記念品を贈呈している。						
目標未達の場合の要因分析							

8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
石巻専修大学開放講座	宮城県教育委員会との共催で、平成27年6月4日から7月16日までに計7回実施し、16歳以上の県民が計81名受講した。自己充実や生きがいの追及などに資する学習機会を提供することにより、圏域住民の高度で多様な学習要求に応えることにつながった。	適正に事業が実施された。	—

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

事業の公共性、 公益性	大学の持つ人的、物的教育資源を地域社会に開放するとともに、自己充実や生きがいの追及などに資する学習機会を提供し、地域の教育文化の振興を図る。		
----------------	--	--	--

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
地域研究助成事業	「地域間連携による製品開発事業に関する実証的研究」ほか1つの研究に対して100万円を助成した。本助成により、高等教育機関の育成振興及び石巻地域の学術振興が図られた。	適正に事業が実施された。	—
事業の公共性、 公益性	石巻専修大学教職員が行う石巻地域に係る経済・社会・文化に関する学術研究及び産業・文化の振興に寄与する研究に対し助成を行い、石巻地域における文化・芸術の振興を図る。		

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
奨学金貸与事業	3名に計380万円を貸与した。石巻専修大学に入学又は在学する経済的に就学困難な学生を対象に奨学金を貸与することにより、学習機会の拡大と将来を担う有能な人材の育成が図られた。	適正に事業が実施された。	—
事業の公共性、 公益性	圏域在住の、経済的事由により就学困難な学生に対し、奨学金を貸与することにより学習機会の拡大と人材育成を図る。		

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
石巻専修大学と 圏域首長・議長 懇談会	石巻専修大学関係者及び石巻圏域の首長・議長が出席し、懇談会を実施した。石巻専修大学の有する学術研究機能に対する圏域首長・議長の理解を深めることにより、行政と大学との協力体制が強化された。	適正に事業が実施された。	—
事業の公共性、 公益性	石巻専修大学の有する学術研究機能に対する圏域首長・議長の理解を深めるとともに、相互の交流を促進し、圏域内における行政と大学との協力体制の強化につなげる。		

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
石巻専修大学と圏域高等学校との懇談会	石巻専修大学関係者及び石巻圏域高等学校長等が出席し、懇談会を実施した。圏域高等学校と石巻専修大学との相互理解及び親睦を深められることにより、地域の教育文化の向上に寄与した。石巻地域教育力向上ため、本懇談会の中で決定した「圏域高等学校向けの大学見学会」等を実施した。	適正に事業が実施された。	—
事業の公共性、公益性	地域の教育文化の振興に向け、圏域高等学校と石巻専修大学との相互理解を深めることにより、地域の教育文化の向上に寄与する。		

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
石巻専修大学生顕彰事業	ボランティア活動など、地域と学生の心豊かな交流及び文化・学術振興が図られる顕著な活動を実施した団体に対し、表彰状と記念品を贈呈した。平成27年度は、石鳳祭実行委員会及び山崎泰央ゼミナールの2団体を表彰した。	適正に事業が実施された。	—
事業の公共性、公益性	ボランティア活動など、特に顕著な活動を実施した石巻専修大学の学生を表彰するものであり、学生の主体的な活動を促し、活動意欲の向上や地域との交流促進が図る。		

9 市が期待する役割、市意見等 (担当部署記載)

※各情報公開シートの個別項目毎及び決算全体の所感について、別紙様式に記載ください。